



平成27年10月1日

	観光振興課
担当者	飯塚、園田
内線	2645
ダイヤルイン	895-2645

「長崎県観光動向調査」について

本県の平成27年4～6月期における観光動向について、
別添のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。

本県では、観光客数の動向（トレンド）を適宜把握する目的で、年1回公表の
「長崎県観光統計」とは別に、観光動向に関する調査を実施し、3ヵ月毎にその
結果を「長崎県観光動向調査」としてお知らせしております。

調査概要の詳細は別添資料をご参照願います。



長崎県観光動向調査 (平成27年4～6月分)

主要指標

平成27年4～6月

	対象施設	延宿泊客数 利用者数	H27-H26 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	162	1,178千人	+8.2%	+89千人
主要観光施設	27	2,324千人	+4.1%	+92千人

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、明治日本の産業革命遺産がユネスコ世界遺産委員会の諮問機関である ICOMOS (イコモス) による勧告を受けたことに伴い、世界文化遺産登録に向けて注目を浴びたこと、ハウステンボス及びその周辺での宿泊が好調であること、夜景などの夜型観光が好調を維持していること、アジアを中心とした外国人観光客が増加していることなどから、4～6月期全体で対前年同期比+8.2%となった。

主要観光施設の利用者数は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産であるグラバー園への入園者数や、軍艦島の上陸者数が好調であったこと、ハウステンボスの集客が引き続き好調であったことなどから、4～6月期全体で対前年同期比+4.1%となった。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

明治日本の産業革命遺産が ICOMOS (イコモス) による勧告を受けたことで、世界文化遺産候補群が注目を浴びたこと、夜景観光が好調を維持していること、引き続き造船関連のビジネス客の増加がみられたことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+7.4%となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

集客増を続けているハウステンボスやその周辺、市街地エリアのほとんどの施設において外国人を含めた宿泊客が増加したことに加え、新規宿泊施設が開業した波佐見をはじめ、佐世保市以外のエリアでも安定した集客があったことから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+19.8%となった。

【平戸・松浦ブロック】

一部宿泊施設で団体客が減少したことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比 8.7%となった。

【諫早・大村ブロック】

電子部品関連等のビジネス客の増加がみられたことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+20.5%となった。

【島原半島ブロック】

島原エリア、小浜温泉エリアの宿泊客数はわずかに増加したが、雲仙温泉エリアでは団体客が減少したこと、雲仙市のその他のエリアでは宿泊施設の新規開業に伴う反動減がみられたことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比 9.2%となった。

【五島ブロック】

ゴールデンウィーク期間中に多くの集客があったこと、世界遺産候補への注目が高まったことなどから、新上五島町、五島市ともに宿泊客の増加がみられ、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+8.0%となった。

【壱岐ブロック】

ゴールデンウィーク期間中での集客はあまり見られなかったものの、島外からのツアー客が増加したことなど、期間を通してわずかな増加がみられたことから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+2.9%となった。

【対馬ブロック】

一定の来訪がある韓国において MERS (中東呼吸器症候群) が流行したことに伴い、6月は宿泊者数がわずかに減少したものの、4月、5月で大幅に宿泊客が増加したことにより、4～6月期全体の宿泊客数では対前年同期比+13.5%となった。

【参考】外国人観光客の動向 (ご協力いただいた施設のためのサンプル調査)

昨年4月の韓国での大型客船転覆事故の影響に伴い、対前年同期で減少していた韓国人観光客が回復したことや、中国、香港などからの観光客も安定して増加傾向にあることなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+42.7%となった。

(参考資料)



